

## 序章 「新第5次振興計画の策定にあたって」

### 1 策定の趣旨

本市では、平成18年に平成27年を目標年度とする第5次振興計画を策定し、これに基づき、「歴史と文化の織りなす 気品ただよう美しい都市 寒河江」の将来都市像の実現をめざし、計画的に行政運営を推進してきました。

しかし、計画策定後、少子高齢化の進展、景気の後退など社会情勢の変化、政権交代による国政の変化、県による「第3次山形県総合発展計画」の新たな策定、市民の市政ニーズの変化など、寒河江市を取り巻く状況は、計画策定時の想定を超えて変化しています。

このため、新たな時代に対応しながら、まちづくりの方向性をより確かなものにするのが重要であると考え、中間年にあたる平成22年度に計画の見直しを行い、新たな計画を策定することとしたものです。

計画の見直しにあたっては、「市民の意見を十分にふまえた、市民主体の計画の見直し」を基本方針として掲げ、新たな計画を審議する振興審議会委員を市民から公募したほか、これまでの取組みを市民目線で評価検証する市民アンケートの実施や市内各地域で地域の課題等を話し合う地域ワークショップの開催などそのプロセスについても「市民主体」を重要視して、計画の策定に取り組むこととしました。

### 2 計画の構成

本計画の構成については、従来の計画に引き続き、基本構想、基本計画、実施計画とします。

- (1) 基本構想は、寒河江市の将来都市像とこれを実現するための必要な施策の大綱を明らかにするものです。
- (2) 基本計画は、基本構想に示された施策の大綱に基づき、体系的に計画の方向と施策を示すものです。
- (3) 実施計画は、基本計画で示した方向と施策に沿って具体的な施策、事業を示すもので、計画期間を3ヶ年とし毎年策定していきます。

このたびの計画では、今後5年間特に推進する施策を、重点プロジェクトとして示し、推進していくこととします。

### 3 計画の期間

本計画の期間については、従来の計画に引き続き、平成27年度(2015年)を目標年度とします。

## 4 策定の背景

### 1 少子高齢化を伴う人口減少への対応（現実化、可視化）

日本の総人口は、出生率の低下等により平成17年に初めて減少に転じ、本格的な人口減少社会を迎えました。

本市においても、本計画の最終年である平成27年では、42,447人（平成17年からの10年間で1,178人（2.7%）の減少、県全体では6.8%の減少）と推計されています。また、人口減少の傾向は今後も続いていくことが推測されています。

平成22年10月1日現在で行われた国勢調査による人口（概数の速報値）は、42,334人（平成17年から1,291人（3.0%）の減少）となっており、推計よりも人口減少が進んだ結果になりました。

このため、安心して生み育てられる環境を整備するとともに、子どもからお年寄りまで元気に暮らせるまちづくり、交流が進むまちづくり、これからの寒河江を担う子どもたちの教育や人づくりなど総合的に施策を推進することにより、市内外の人から愛されるまちをつくり、人口減少の抑制を図り活力あるまちをめざしていく必要があります。

### 2 地域産業の活性化（労働力人口の減少）

国境を越えた経済活動や市場の拡大を背景に、資本・人材・物の移動が活発化し、世界経済の連動性が強まっています。

市内経済についても、世界的な経済不況の影響や生産年齢人口の減少等により、市内総生産は伸び悩んでいます。

本市が持つ地域資源をさらに活用することや市内において付加価値を高めることを通して、国内外などの外部の環境変化に対応できる産業を支援し、雇用の確保に努めていくことが必要となっています。

### 3 安全安心な地域づくり（安全安心への関心の高まりと地域のつながり）

地震や洪水などの自然災害への不安や子どもやお年寄りを狙った犯罪、食の安全に関わる問題など、さまざまな分野において安全安心に対する関心が高まっています。

行政と地域住民が連携し、地域見守りネットワークや自主防災組織の構築など地域全体で互いに支え合う、安全安心な地域づくりを推進していくことが必要となっています。

#### 4 環境にやさしい循環型社会づくり

世界規模の環境問題が深刻化していることから、省エネや資源のリサイクルなど私たちが生活するうえで環境に対して配慮し実行することや、次世代に美しい自然環境や資源を残すという意識が高まっています。

特に、地球温暖化の防止のため、低炭素社会の実現に向けた国際的な取組みが求められており、二酸化炭素などの排出量が少ない生活スタイルや産業システムを構築し、環境への負荷の少ない持続可能な循環型社会を構築することが必要となっています。

低炭素社会：温室効果ガスの排出を大幅に削減しつつ、生活の豊かさを実感できる社会

#### 5 地域主権時代への対応

今後も国と地方の厳しい財政状況が予想され、自己決定・自己責任を原則とする地域主権型社会への転換が進められています。

市の財政についても、経費の縮減、市債残高の減少に努めているものの、社会保障関係費の増嵩や公債費が高い水準で推移するなど、厳しい財政状況となっています。

本市においても効率的な行財政運営による「自立」と地域の様々な資源を活用した魅力の「創造」に努める必要があります。

## 5 寒河江市の将来都市像

本計画を見直すにあたり、本市を取り巻く社会情勢や市民アンケートの結果、地域ワークショップなどにおける市民の意見をふまえ本市のめざす方向性を次のとおりとしました。

これからの若い人、子どもたちの将来が見えてくる、新しい寒河江をつくっていく

子どもからお年寄りまで暮らしやすいまちづくりをめざす

寒河江の特長である「協働」、「ボランティア」を大事にしていく

豊かな自然を保護し、美しい景観を保全していく

他の市町村からも魅力的に映る寒河江をつくり、市内外の人から愛される寒河江、交流が進むまちをめざす

寒河江は、さくらんぼのまち。「さくらんぼの寒河江」をアピールしていく

めざす方向性をふまえ、次の新しい将来都市像を設定することとします。

### 新たな将来都市像

「夢集い 人・緑輝く さくらんぼの都市<sup>まち</sup> 寒河江」

夢集い：寒河江の未来が明るく広がり、交流も進むまち

人・緑輝く：人が生き生きと暮らし、豊かな自然や美しい景観を大切にするまち

さくらんぼの都市(まち)：「さくらんぼの寒河江」をアピールするとともに、さくらんぼのように、きらりと輝き、たくさんの人から愛されるまちをめざす

## 6 重点プロジェクト

新たな将来都市像「夢集い 人・緑輝く さくらんぼの都市<sup>まち</sup> 寒河江」を実現するため、特に推進する施策を重点プロジェクトとして掲げて取り組んでいきます。

なお、重点プロジェクトの推進にあたっては、「市民主体のまちづくり」を志向し、市民とともに取り組んでいきます。

- (1) 「さがえっこ」すくすくプロジェクト
- (2) 「さがえのさくらんぼ」きらきらプロジェクト
- (3) 慈恩寺 「悠久の魅力」向上プロジェクト
- (4) 長岡山 「市民憩いの花咲か山」プロジェクト
- (5) 安全安心な「共助のさがえ」推進プロジェクト
- (6) 「さがえの雇用」拡大プロジェクト
- (7) 「さがえはつらつ」プロジェクト

## (1) 「さがえっこ」すくすくプロジェクト

寒河江の未来を明るいものにするためには、寒河江の未来を担う子どもたちのすこやかな成長を育むことは、最も重要な課題のひとつです。

本市では、これまで以上に子どもたちがすこやかに成長できる環境を整備していきます。

親子の交流の場の提供と交流の促進、子育てに関する相談、援助の実施などを行う子育て支援センター(仮称さがえさくらんぼキッズセンター)の整備  
子育て家庭の経済的な負担を軽減するため、子どもの医療費無料化の対象の拡大

子育てと仕事の両立を支援するため、待機児童ゼロの保育体制の構築及び学童保育所の設置の支援

子どもの学力向上や読書活動、食育の充実、生活リズムの確立等をめざし、学校・家庭・地域が連携した「さがえの子ども育みアクションプラン」の策定、推進

子育て世代が市内に住宅建築する場合の建築費助成制度の創設

子育て環境の充実のため地域の身近な公園の市民主体の再整備

## (2) 「さがえのさくらんぼ」きらきらプロジェクト

さくらんぼは、寒河江の最大の魅力として、これまで「日本一さくらんぼの里」として様々な取組みを進め、上質のさくらんぼの産地として高い評価を得てきましたが、産地間競争が激化しており、市民からもさくらんぼの振興、PRの強化を求める声が寄せられています。

「さがえのさくらんぼ」がもっとたくさんの人から愛されるようさらなる取組みを推進します。

さくらんぼの長期生産体制を確立し、天候に左右されない高品質のさくらんぼを生産する無加温ハウスの普及

栽培労力を低減し、高品質のさくらんぼ生産が可能な低木Y字仕立てハウスの普及

紅秀峰のトップセールスによるブランド化の推進、苗木助成による作付面積の拡大

さくらんぼ狩りの観光客を円滑に案内するさくらんぼ狩りネット案内システムの構築

「さくらんぼの種吹きとばし」をはじめとする、さくらんぼ関連のイベントの刷新(リニューアル)

### （３）慈恩寺 「悠久の魅力」向上プロジェクト

慈恩寺は、慈恩宗の本山で、奈良時代の草創と伝えられる古刹であり、本堂や平安・鎌倉時代の仏像などが、国指定の重要文化財となっています。

一方で、観光者数は16万人前後の横ばいで推移しており、市民から観光資源としての態勢整備や美しい景観の保全の取組みを求める声も寄せられており、寒河江の宝として慈恩寺の国史跡指定をめざすなど、その魅力向上のための取組みを進めていきます。

本山慈恩寺との連携を密にしながら、各種調査研究を進め、慈恩寺の国史跡指定に向けて取り組む

慈恩寺シンポジウムの継続的な開催等、慈恩寺の学術上の高い価値についての情報発信

観光案内機能を併せた休憩施設の整備など慈恩寺の魅力をもっと堪能できる受入態勢の充実

醍醐地区の住民とともに慈恩寺地区の景観計画を策定し、歴史的、文化的景観の保全・形成へ取り組む

### （４）長岡山「市民憩いの花咲か山」プロジェクト

長岡山は、市街地中央にある寒河江のランドマークであり、その一帯が自然豊かな寒河江公園です。眺望がよく山形盆地や月山、蔵王、朝日連峰の山々を一望でき、東には東北一の規模のつつじ園、西には寒河江市郷土館や桜の丘、南には総鎮守寒河江八幡宮があります。

数々の文学碑や運動広場、散策路が整備されており、四季を通じて楽しめる公園ですが、市民から長岡山を観光ルートの拠点となるよう魅力的な花見のできる山としての整備を求める声も寄せられており、市内外から愛される公園として整備していきます。

市民の意見を十分に取入れた、長岡山の総合的な整備計画の策定

観光バスも乗り入れることのできるアクセス道路や駐車場の整備

つつじ公園や桜を活かした花咲か山として、市民に愛される公園づくり

### (5) 安全安心「共助のさがえ」推進プロジェクト

自然災害や犯罪、食の安全に関わる問題など、さまざまな分野において安全安心に対する関心が高まっています。市民から、実際の災害発生時に機能する実効性のある対策や一人暮らしの高齢者のサポート、高齢者の日常の交通手段の確保を求める声も寄せられており、行政と地域住民が連携し、地域全体で共に助け合う、安全で安心して暮らせるまちづくりを推進していきます。

自主防災組織の組織化の促進とともに、地域ごとに防災訓練を実施し災害時の要援護者への対応など実際に迅速な対応ができる体制の整備  
 学校等避難所となっている公共施設の耐震化の推進、橋梁の長寿命化の推進、一般住宅の耐震化の促進  
 高齢化の進展に伴い一人暮らしの高齢者が増加していることなどから、地域における見守り体制の構築  
 運転免許を返上する高齢者の増加が見込まれることから、車を持たない市民の日常の移動手段の確保を図るべく、デマンド型交通の導入に向けて取り組む

### (6) 「さがえの雇用」拡大プロジェクト

世界的な経済不況の影響や生産年齢人口の減少等により、本市の市内総生産は伸び悩んでいます。西村山地域の有効求人倍率も過去数年1倍以下で推移しており、県内の他地域と比べても低水準になっています。市民からも、「雇用の確保」については満足度が低く、今後力を入れるべきとの声が寄せられており、関係機関とも連携しながら雇用の拡大に向けて取り組んでいきます。

寒河江スマートICから寒河江中央工業団地を結ぶ市立病院前道路(都市計画道路山西米沢線)を整備拡張するなど、交通アクセスに優れた工業団地として魅力を高め、工業団地への企業誘致の戦略的な推進  
 金融機関とも連携しながら、企業間・産学官ネットワークを構築することにより、新たな製品・技術の開発を促進し、地元企業の活性化に取り組む  
 インターンシップ事業等の充実による若者の就職及びその後の定着支援の推進や子どもを安心して生み育てられる職場環境づくりの促進  
 国の雇用対策事業も活用した積極的な雇用創出、地元企業の受注拡大に向けた支援



(7) 「さがえはつらつ」プロジェクト

寒河江を活気と活力に満ちたまちとするためには、人やまちの交流を進めていく必要があります。市内外の人が楽しめるイベントの開催や地域の伝統野菜、特産品の生産振興、スポーツの振興等を通して、市の活性化へ向けた、賑わいの創出や交流の拡大に取り組んでいきます。

ちえりーマルシェやジャズフェスティバル、名物寒河江ひっぱりうどんまつりなど市民主体のイベントの開催による、駅前やまちなかの活性化  
中心市街地の核として、中心市街地活性化センター（フローラ・SAGAE）の機能の充実  
仙台寒河江会等と連携を図り、仙台圏や首都圏への情報発信の強化、交流人口の拡大  
子姫芋やもって菊など地域の伝統野菜等の生産振興、ブランド化の推進  
冬季においても屋外型スポーツができる「屋内多目的運動場」の整備を進め、市民が年間を通じてスポーツに親しめるまちづくりに取り組む